

# ASEAN 中核国家対中国意識に関する調査研究 —タイのエリート層の対中意識調査を中心に—

張 雲  
新潟大学 准教授

## 緒 言

中国の台頭は 21 世紀国際関係における最大の変数の一つと言っても過言ではない。過去 30 年間、中国の高速発展と世界経済への統合は ASEAN を含む周辺諸国に明らかに影響を与えている。2000 年代に入り、中国と ASEAN との関係は飛躍的に発展している。経済面において、ASEAN 諸国は中国との経済の結びつきは著しく強くなり、大半の ASEAN の国の最大の貿易相手国は中国になった。2002 年中国と ASEAN は自由貿易協定 (FTA) を結び、2010 年 1 月 ASEAN - 中国自由貿易区が建設され、2011 年貿易額は 3628 億ドルに達した。中国は ASEAN にとって最大の貿易相手国になり、ASEAN は中国にとって第三の貿易相手国である。また、中国・ASEAN 博覧会は 2004 年から毎年中国の南寧で行われている。政治面において、2003 年に中国と ASEAN は戦略協力関係を樹立し、双方のハイレベル訪問は頻繁に行われている。現在、首脳会議、12 の閣僚レベル会議メカニズム、5 のワーキングレベル対話体制が構築されている。2009 年、中国は ASEAN 大使を設置した。中国として、対 ASEAN 外交は自国が展開している「善隣外交」の成功例と自負している。

一方、中国と ASEAN の関係前進はあくまで政府主導の色が濃く、政府間交流、経済協力の実績などに限ってみると、ASEAN と中国との関係は非常に緊密かつ良好に見える。しかも、大半の各国の学者、専門家は ASEAN と中国の政治家相互訪問の共同声明、政府間公文書、大型イベントの指導者の発言などを引用し、以上の論点を証明している。しかし、ASEAN 諸国の国民の対中国認識、感情あるいは対中国のイメージ、この政府主導のペースに合致しているかどうかは疑問である。つまり、双方関係の隠されている社会的基盤は強固なものかどうかは不透明である。先行研究として、北京大学国際関係学院教授張錫鎮教授が 2007 年—2008 年タイの大学で講義期間中、実験としてタイ人の対中意識を初歩

的な調査をすることにした。2007 年 8 月から 3 カ月をかけ、バンコクを中心 450 名のタイ人を対象にし、タイ語での質問票を配布し、調査を実施した。まだ、実践段階のものであるが、いくつか興味深い結果が出た。例えば、82.2%が中国とアメリカとの覇権争いの状況が来ると答えた。35.3%が中国はアジア各国の脅威になると答え、逆に中国は脅威ではないと答えたのは 25.5%であった。中国とタイの関係において、40.2%が中国とタイとの自由貿易協定はタイにとってデメリットのほうが大きいと答えた。37.2%が中国はタイの脅威と見なし、脅威ではないと答えたのはわずか 21%であった。このような結果は少なくとも表面的な情報から生み出された結論の不十分さを露呈し、ASEAN 諸国の潜在的な対中認識を洗い出し、より正確な ASEAN と中国との関係の全体像を探ることが必要である。

中国と ASEAN との関係の未来は単純に経済依存関係に左右されるのではなく、ASEAN の対中認識も重要な変数である。このような対中認識は戦略的かつ政策的な意味合いが含まれ、一般の国民民意よりは特に ASEAN のエリート層がどのように中国の台頭を認識しているのかを把握することが重要である。本調査研究は ASEAN のエリート層の対中認識に焦点を当て、ASEAN の中核国家であるタイ、インドネシアそしてマレーシアのエリート層の対中国意識についてのアンケート調査を実施する。調査対象の多岐にわたり、協力していただくことも簡単ではなく、質問の敏感性もあり、また経費の制約などにより、予想より進行が難しく、今の段階ではタイのエリート層の対中認識調査研究だけを終えた。今後の課題として、残りの二国について継続的に調査研究を行う予定である。

## 研究方法

本研究はタイのエリート層をターゲットとしている。具体的にはタイ政府高級公務員、軍の幹部、学者・専門家、

企業家、マスコミ関係者などを指す。主にはタイの国会により作られたタイのエリート層の研修教育機関である King Prajadhipok's Institute のご協力を得て、アンケート調査を実施した。調査票はまず本研究の責任者である張雲准教授がアンケート調査票の原案を英文で作り、そして中国、オーストラリア、ASEAN 諸国などの専門家の意見を取り入れ、アンケート質問票を作成。その後、タイでのアンケート調査の Primary Partner である King Prajadhipok's Institute の Niyom Rathamarit 教授により質問票をタイ語に翻訳し、当研究機関で研修を受けてきたタイの政治、軍事、経済、文化、教育そしてマスコミのエリート層の方々に質問票に答えていただいた。質問票を回収後、現在タイの Thammasat University で教鞭を取られている北京大学国際関係学院教授の張錫鎮先生により調査結果を英語に訳し、統計をまとめた。

本アンケート質問票に答えるには 15 - 20 分の時間を要し、しかも高度な見識が必要であり、またエリート層にターゲットするため大量なサンプルを期待していなかった。最終的には 139 人から回答を回収した。回答者の構成は公務員（国会議員含む）47 人、軍の幹部 7 人、学者 5 人、企業経営者 72 人、マスコミ関係者 2 人である。彼らの大半は中国のエリートとの接触した経験があり、タイのエリート層の各方面をカバーし、同国のエリート層の対中認識の主流を把握することには有益だと思われる。

しかし、エリート層の選択はある意味では主観的である。回収したサンプルの数は職業によって偏りが見られる弱点が存在している。それと同時に、調査の一部の質問は敏感の部分があり、一部の質問への回答を拒否したケースもあった。このような変数は研究者と協力者がコントロールできないことであるが、結果的に調査結果の科学性に影響することも否めない。ただ、以上の欠点はプロジェクト全体の意義を否定することではない。現在の ASEAN の対中政策の研究は政策解釈、断片的な取材、特定の事例分析のことが大半を占め、本調査研究は ASEAN 対中政策の背後にあるエリート層の認識土台を総合的なデータを提供し、ASEAN の対中政策の現状と展望に分析するとき有効な手段を提供する。

## 結果と考察

① 中国へのグローバル・パワーシフトへの強い認識を示した。中国のアジア地域平和への貢献度に期待を寄

せているが、米国のアジアでの存在の継続を強く望んでいる。(表 1)

タイのエリート層のグローバル・パワーシフトに対する敏感性が普通の民意より顕著であるところが現れる。76%のタイのエリート回答者は現在の国力の最強国はアメリカであると答えたに対し、同じく 76%の回答者は 10 年後に中国が最強国になると回答した。タイにとっては現在最も重要な国は中国であると答えたのは 56%で、アメリカは 33%、日本は 11%であった。これは一般タイ国民を対象に調査した結果のアメリカの重要性が中国より高いとの結果（7割がアメリカのほうが重要と回答した。）と大きく異なっている。さらに、10 年後にタイにとって最も重要な国が中国を答えたのは 89%に上り、逆に米国は 4%しかない。エリート層の回答と一般民意の間に明らかに差があることが確認できた。これは国際情勢への見識、自らの体験などによりできたことだと思われる。

パワー・シフトのアジア地域への影響について、中国の地域覇権を目指すと同時にアメリカの覇権地位を挑戦する意図があると考えるタイのエリートが大半を占めると同時に、中国の地域平和への貢献度を強い期待を寄せている。また、米国の継続的な関与も期待している。アジア地域の平和を維持するために最も重要な国の質問に対し、中国を答えたのは 50%、アメリカ 40%であった。しかし、将来米国中心の二国間安全保障ネットワークが維持されるところに可能と答えたのは 75%に上っており、中国中心の「朝貢体制」に戻る可能との答えの割合を大きく上回る。10 年後、アジアの国際秩序が最も可能なシナリオについて、米中ともにリーダーシップを取ると答えたのは 40%であり、アジアの国々が集団的にリーダーシップを取ると答えたのが 42%であった。中国はアジアあるいは世界に覇権戦略の意図があると答えたのが 76%に上り、中国はアメリカの世界地位を挑戦する意図があると答えたのが 82%であった。米国のアジアにおける軍事存在は中国対等のバランス的な機能と認識していると答えたのが 78%であり、オバマ政権の「アジアへの旋回」戦略に対しポジティブと認識しているのが 84%であった。

② タイのエリートは中国台頭の不確実性を強く感じるが、脅威と考えるのが薄いようだ。(表 2)

表1 ジェネラル戦略認識

1	世界で最もパワフルな国は？	アメリカ	中国	日本	インド	ロシア		
		76%	24%	0%	0%	0%		
2	10年後、世界で最もパワフルな国は？	アメリカ	中国	日本	インド	ロシア		
		21%	76%	2%	1%	0%		
3	タイにとって最も重要な国は？	アメリカ	中国	日本	インド	ロシア	オーストラリア	インドネシア
		33%	56%	11%	0%	0%	0%	0%
4	10年後、タイにとって最も重要な国は？	アメリカ	中国	日本	インド	ロシア	オーストラリア	インドネシア
		4%	89%	4%	1%	0%	1%	
5	アジアの平和を維持には最も重要な国は？	アメリカ	中国	日本	インド	ロシア	オーストラリア	インドネシア
		40%	50%	5%	1%	1%	2%	1%
6	10年後、アジアの平和を維持には最も重要な国は？	アメリカ	中国	日本	インド	ロシア	オーストラリア	インドネシア
		23%	69%	4%	0%	2%	1%	1%
7	将来アジアの国際関係は米国中心の二国間主義が継続すると思うか？	可能性がかなり高い	可能性がやや高い	可能性がやや低い	可能性がかなり低い	どちらとも言えない		
		25%	50%	19%	2%	5%		
8	将来アジアの国際関係は歴史上の中国中心の「朝貢体制」になると思うか？	可能性がかなり高い	可能性がやや高い	可能性がやや低い	可能性がかなり低い	どちらとも言えない		
		24%	26%	31%	17%	2%		
9	どのようなアジアの国際関係は理想的かつ安定的だと思うか？	アメリカリード	中国リード	米中共同リード	アジア共同リード	分からない		
		4%	4%	39%	53%	1%		
10	10年後、最も可能なアジア国際関係のシナリオは？	アメリカリード	中国リード	米中共同リード	アジア共同リード	分からない		
		2%	12%	40%	42%	4%		
11	中国はアジアあるいは世界に覇権的な戦略意図を持つと思うか？	ある	ない	分からない				
		76%	11%	13%				
12	中国はアメリカの世界あるいはアジアでの地位を挑戦する意図を持つと思うか？	ある	ない	分からない				
		82%	9%	9%				
13	アメリカのアジアでの軍事存在は中国台頭にバランスグーに有益だと思うか？	はい	いいえ	分からない				
		78%	15%	7%				
14	アメリカの「アジアへの旋回」戦略は建設的な結果をもたらすと思うか？	はい	いいえ	分からない				
		84%	9%	7%				

中国は責任のある大国であるかとの質問に対し、71%が Yes と答えた。これは一般民意の結果の 47%を上回る。中国は平和志向の国であるかとの質問に対し、83%が Yes と答えた。これも一般民意の 38%を大きく上回る。それに対し、タイのエリート層は中国の国のイメージに関する質問に対し、91%が自己中心、68%が傲慢的、97%が重商主義と答えた。しかし、これは中国が悪意を持つ国という意味ではないようだ。89%の回答者は中国を信頼できると答え、これはアメリカの 62%、イギリスの 60%、インドの 51%、インドネシアの 57%より高く、しかし日本を信頼できると答えた比率は 91%で、最も高かった。タイにとって中国は盟友あるいはパートナーと答えたのが 93%に上り、脅威と答えたのが僅か 5%であった。これは一般民意と大きな開きが見られている。(32%) タイのエリートにとって最大の安全脅威は国内政治動乱であり、続いてタイとカンボジア国境衝突、国内民族衝突であった。タイのエリートたちは中国の台頭を不確実性として考える向きが多く、脅威と考えることが薄いようだ。これに対し、一般の民衆は脅威を見る向きがより顕著のようだ。中国とタイとの関係について、良好だと答えたのが 98%であった。また、中国の経済発展はタイにとってチャンスであると答えたのが 83%であった。しかし、タイの経済の中国経済に依存が高まることにより、54%の回答者は中国への発言力が低下すると答え、またタイの雇用の減少に繋がったと考えるのが 72%もあった。

③ ASEAN 中国関係を相対的に良好と認識するが、南シナ海問題における中国外交を強気だと考えるのが 5割を超える。(表 3)

中国・ASEAN 関係を良好と答えたのが 90%、一般民意よりやや高かった。中国と一部の ASEAN 加盟国の間にある南シナ海の領有権の争いについて、比較的深刻だと答えたのが最も多く、51%にあったが、あまり深刻でないと答えたのが 31%であった。非常に深刻な問題だと答えたのが僅か 4%であった。これはタイと中国との間に領土問題存在していないことと関連があると思われる。ただ、南シナ海の問題における中国外交を強気だと考えるのが 5割を超える。

中国・ASEAN 自由貿易協定 (FTA) について、タイのエリートたちはこれが中国の「善隣政策」の表れだと答えたのが 71%に上り、一般民意の 4割は FTA がマイ

ナス効果との結果と大きく異なっている。これは、一般国民が一部のマスコミの報道により中国の商品が大量に入ることを恐れるとすることが関連すると思われる。

④ タイのエリート層はアメリカの対中外交は中国の対米外交より自己主張強く、中国の対日外交が日本の対中外交より自己主張強いと認識する。東シナ海の日中の領有権問題について、日中両国共に民族主義的な外交と認識し、中国外交が日本よりやや民族主義の色が強いと答えた。(表 4)

中国外交のイメージについて良好と比較的良好だと答えたのが 91%であったが、外交手法が自己主張強いと答えたのが 84%であった。アメリカの対中国外交は中国の対アメリカ外交より自己主張強いとの結果であったが、逆に中国の対日本外交が日本の対中国外交より自己主張強いとの結果であった。日中の東シナ海の領土問題について、中国の外交が民族主義的だと答えたのが 82%に上り、日本の外交が民族主義的と答えたのが 75%であった。タイのエリート層から見れば、中国の対日外交が日本の対中外交より民族主義の色が濃いとの結果であった。中国の軍事力増強について少々深刻だと答えたのが最も多く (50%) であり、タイのエリートにとってそこまで心配する問題にはなっていないようだ。中国の発展モデルがアメリカのワシントン・コンセンサスより発展途上国に相応しいと答えたのが 63%に上り、これは近年タイの民主主義が機能低下と関連すると考えられる。

⑤ タイのエリートにとって、日中米のエリート層の中に、最も信頼できると答えたのが日本のエリートであった。日米のエリート層が革新的と答えたのが 8割を超え、中国のエリート層には 6割にとどまっている。(表 5)

## 謝 辞

このたび、公益財団法人三島海雲記念財団の研究奨励金をいただき、心から御礼を申し上げます。タイでの調査研究に多大なご尽力をされた King Prajadhipok's Institute の Niyom Rathamart 教授と北京大学国際関係学院教授の張錫鎮を厚く御礼を申し上げます。

米国、オーストラリア、ASEAN、中国の専門家のご助言にも感謝致します。

表2 中国台頭及びタイ・中国関係への認識

1	中国は責任を持つ大国だと思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		15%	56%	26%	1%	2%	
2	中国は平和志向な国だと思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		14%	69%	15%	1%	2%	
3	中国は外交上他国の利益を考慮すると思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		17%	65%	10%	4%	4%	
4	中国はセルフイッシュな国と思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		29%	62%	5%	1%	3%	
5	中国は傲慢な国と思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		16%	53%	24%	2%	4%	
6	中国は好戦的な国と思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		3%	42%	42%	9%	4%	
7	中国は重商主義の国と思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		81%	16%	1%	1%	1%	
8	タイは中国を信頼するか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		21%	68%	8%	2%	1%	
9	タイは米国を信頼するか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		6%	56%	32%	4%	1%	
10	タイは日本を信頼するか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		29%	62%	9%	0%	0%	
11	タイは英国を信頼するか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		8%	52%	38%	0%	2%	
12	タイはインドを信頼するか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		4%	47%	44%	2%	2%	
13	タイはインドネシアを信頼するか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない	
		7%	50%	36%	5%	2%	
14	タイにとって、中国の位置づけは？	同盟国	パートナー	競争相手	脅威的存在	敵的存在	
		52%	43%	1%	4%	0%	
15	タイにとって、中国の経済台頭はどう見ているか？	機会	機会>脅威	機会<脅威	脅威	どちらとも言えない	
		21%	61%	18%	0%	0%	
16	中国の経済発展はタイの雇用の流失に繋がると思うか？	全くそう思う	まあそう思う	そう思わない	どちらとも言えない		
		6%	66%	27%	1%		
17	タイにとって、最も深刻な安全保障上の脅威は？	国内の政治乱	タイ・カンボジア紛争	民族紛争	中国	インド	
		81%	10%	9%	0%	1%	
18	下記の国の中、タイにとって最も重要な投資国は？	アメリカ	中国	日本	インド	韓国	オーストラリア
		6%	28%	64%	0%	1%	1%
19	タイと中国との関係をどのようにみているか？	大変良いと思う	まあ良いと思う	あまり良くないと思う	全く良くないと思う	どちらとも言えない	
		28%	70%	1%	0%	0%	
20	タイは経済的に中国依存が高まり、タイが中国に対する発言力が低下に繋がると思うか？	そう思う	そう思わない	分からない			
		54%	37%	9%			

表3 中国台頭とアセアン・中国関係

1	アセアン・中国関係をどう見ているか？	大変良いと思う	まあよいと思う	あまり良くないと思う	全く良くないと思う	どちらとも言えない
		12%	78%	10%		
2	中国とアセアンの一部の国の間の南シナ海の問題をどう見ているか？	大変厳しいと思う	まあ厳しいと思う	あまり厳しくないと思う	全く厳しくないと思う	どちらとも言えない
		4%	51%	31%	8%	6%
3	アセアンの南シナ海の問題における中国に対する態度をどう見ているか？	弱気過ぎ	強気が足りない	ちょうどいい	強気過ぎ	どちらとも言えない
		15%	36%	27%	6%	16%
4	中国の影響力の増大によりアセアンの存在感が辺境化になっているか？	可能性がかなり高い	可能性がやや高い	可能性がやや低い	可能性がかなり低い	どちらとも言えない
		4%	35%	44%	12%	5%
5	中国の南シナ海の問題におけるアセアンに対する態度をどう見ているか？	強気過ぎ	まあ強気	ちょうどいい	弱気	どちらとも言えない
		24%	37%	25%	5%	9%
6	中国・ASEAN 自由貿易協定(FTA)は中国の「善隣政策」の表れだと思えるか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない
		12%	63%	15%	1%	10%

表4 中国外交

1	中国の外交的イメージは？	かなり積極的	やや積極的	やや消極的	かなり消極的	どちらとも言えない
		20%	71%	5%	0%	4%
2	普通のタイの国民の中国の外交イメージは？	かなり積極的	やや積極的	やや消極的	かなり消極的	どちらとも言えない
		22%	69%	4%	0%	5%
3	中国の外交行為をどう見ているか？	非常に自己主張強い	まあ自己主張強い	ちょうどいい	自己主張強くない	どちらとも言えない
		41%	43%	12%	2%	2%
4	中国の対米外交をどう見ているか？	非常に自己主張強い	まあ自己主張強い	ちょうどいい	自己主張強くない	どちらとも言えない
		14%	43%	28%	4%	10%
5	米国の対中外交をどう見ているか？	非常に自己主張強い	まあ自己主張強い	ちょうどいい	自己主張強くない	どちらとも言えない
		17%	46%	25%	4%	9%
6	中国の対日外交をどう見ているか？	非常に自己主張強い	まあ自己主張強い	ちょうどいい	自己主張強くない	どちらとも言えない
		16%	34%	21%	16%	13%
7	日本の対中外交をどう見ているか？	非常に自己主張強い	まあ自己主張強い	ちょうどいい	自己主張強くない	どちらとも言えない
		10%	27%	36%	16%	12%
8	東シナ海領有権の問題において中国の対日外交は？	非常に民族主義的	まあ民族主義的	ちょうどいい	民族主義的ではない	どちらとも言えない
		28%	54%	5%	0%	12%
9	東シナ海領有権の問題において日本の対中外交は？	非常に民族主義的	まあ民族主義的	ちょうどいい	民族主義的ではない	どちらとも言えない
		24%	51%	11%	0%	14%
10	中国の軍事力増強は深刻な問題だと思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない
		5%	52%	35%	1%	7%
11	中国の発展モデルがアメリカのワシントン・コンセンサスより発展途上国に相応しいと思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない
		22%	42%	18%	10%	9%
12	中国はソフト・パワーを持っていると思うか？	全くそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらとも言えない
		13%	50%	27%	1%	10%

表 5 中国エリート層への認識

質問 1	中国のエリート層と直接に接触したことがあるか？	たくさんある	まあある	すこしある	全くない
		1%	5%	32%	37%
		はい	いいえ	分からない	
1の1	中国のエリート層は勤勉だと思うか？	92%	4%	4%	
1の2	中国のエリート層はモダンだと思うか？	63%	33%	4%	
1の3	中国のエリート層は革新的だと思うか？	68%	27%	5%	
1の4	中国のエリート層は誠実的だと思うか？	40%	47%	13%	
1の5	中国のエリート層は精力的だと思うか？	39%	52%	9%	
1の6	中国のエリート層は傲慢だと思うか？	27%	64%	8%	
1の7	中国のエリート層は礼儀的だと思うか？	54%	40%	6%	
1の8	中国のエリート層は品のあると思うか？	45%	44%	11%	
1の9	中国のエリート層は信頼できると思うか？	54%	33%	13%	
1の10	中国のエリート層との付き合いは気持ちよいか？	50%	23%	27%	
質問 2	アメリカのエリート層と直接に接触したことがあるか？	たくさんある	まあある	すこしある	全くない
		0%	7%	46%	47%
		はい	いいえ	分からない	
2の1	米国のエリート層は勤勉だと思うか？	68%	27%	4%	
2の2	米国のエリート層はモダンだと思うか？	91%	5%	5%	
2の3	米国のエリート層は革新的だと思うか？	84%	11%	5%	
2の4	米国のエリート層は誠実的だと思うか？	53%	32%	15%	
2の5	米国のエリート層は精力的だと思うか？	47%	43%	10%	
2の6	米国のエリート層は傲慢だと思うか？	56%	35%	9%	
2の7	米国のエリート層は礼儀的だと思うか？	58%	29%	13%	
2の8	米国のエリート層は品のあると思うか？	59%	31%	10%	
2の9	米国のエリート層は信頼できると思うか？	52%	34%	14%	
2の10	米国のエリート層との付き合いは気持ちよいか？	48%	28%	24%	
質問 3	日本のエリート層と直接に接触したことがあるか？	たくさんある	まあある	すこしある	全くない
		1%	12%	41%	46%
		はい	いいえ	分からない	
3の1	日本のエリート層は勤勉だと思うか？	95%	2%	4%	
3の2	日本のエリート層はモダンだと思うか？	81%	16%	3%	
3の3	日本のエリート層は革新的だと思うか？	86%	10%	4%	
3の4	日本のエリート層は誠実的だと思うか？	85%	9%	6%	
3の5	日本のエリート層は精力的だと思うか？	8%	87%	5%	
3の6	日本のエリート層は傲慢だと思うか？	21%	71%	8%	
3の7	日本のエリート層は礼儀的だと思うか？	87%	7%	6%	
3の8	日本のエリート層は品のあると思うか？	90%	6%	4%	
3の9	日本のエリート層は信頼できると思うか？	88%	5%	8%	
3の10	日本のエリート層との付き合いは気持ちよいか？	77%	10%	13%	

## 参考文献

白石隆・ハウ・カロライン：中国は東アジアをどう変えるか、中央公論新書、2012年7月。

Bates Gill, Michael Green, Kiyoto Tsuji, William Watts, *Strategic Views on Asian Regionalism: Survey Results and Analysis* (Washington D.C. Center for Strategic and International Studies, 2009).

Michael Green and Bates Gill, eds., *Asia's New Multilateralism: Competition, Cooperation and the Search for Community* (New York: Columbia University Press, 2009).

張錫鎮：東南アジア研究、No.6, 58-62、2007.

## 質問票と調査結果

質問票は元々英語で作成され、現地でアンケート調査はタイ語で実施され、統計分析段階で再び英語に訳された。ここには英語版から日本語に訳したものである。